



放射能ゾンデ放球の準備をする
渡邊教授(右端)

福島大学が新商品「放射能ゾンデ」で放射線量観測を再開

明星電気は、国立福島大学共生システム理工学類 渡邊教授の依頼を受け、特殊観測用ゾンデの新商品として「放射能ゾンデ」を開発しました。

放射能ゾンデは、ラジオゾンデRS-06GIに放射能センサ(2種類のガイガー・ミュラー管(GM管))を接続し、気温や湿度などの通常の観測要素に加え、β線とγ線強度の高度ごとのデータを観測することができます。従来の地上局設備(RD-08AC簡易受信機)を使って、簡単に放射線量を測定することが可能です。

福島大学は、東京電力福島第1原発の事故直後には、上空30kmまでの大気中の放射線量の観測を行っていましたが、機器メーカーの生産中止により中断していました。この放射能ゾンデの開発により、観測を2013年11月から約2年3ヶ月ぶりに再開し、日本原子力研究開発機構と共同で今後毎月1回、30か月にわたる観測を予定しています。このように明星電気は、様々な場面で活躍できる観測機器を提供しつづけてまいります。

(当社営業担当:グローバル戦略グループ 前田 亮太)



プレゼンテーションする
金子グローバル戦略グループ長

IHIフォーラムインドネシアに参加！

11月20日にIHIフォーラムインドネシアが開催され、明星電気としても高層気象観測分野でラジオゾンデの納入実績があり、また海外拡販の足掛かりとして注力するため、本フォーラムに参加しました。

インドネシアはIHIグループ経営方針2013において重点国の1つに挙げられています。明星電気は、ブースにて火山用地震計、鉄道用地震計、津波観測装置の紹介を行うとともに、金子グローバル戦略グループ長による当社活動を紹介するプレゼンテーションも行い、多くのお客様の関心を呼びました。フォーラム全体の来客者も300名を超え、地元プレスの関心もあり、成功裏に終了しました。今回のフォーラムを契機に、インドネシアにおける更なる事業拡大を目指します。

(当社営業担当:グローバル戦略グループ 長谷田 光俊)



前列中央6名:各国気象業務担当者

JICA気象業務能力向上研修会を開催

JICAが主催する世界各国の気象業務能力向上を目的とする研修の一環で、今年も工場見学会が、明星電気本社・工場で開催されました。

バングラディッシュ、カンボジアをはじめとした6か国の研修生6名が来社し、日本気象測器工業会の紹介に続き、会員である明星電気の紹介、製品紹介、質疑応答等を行いました。その後の展示場では、POTEKA、地震計などに興味を示し、たくさんの質問が飛び交いました。

各国担当者からは、日本の観測機器は先進的で精度も高く、是非製品の展開をお願いしたいとの要望もありました。

明星電気の観測システムが、世界各地の気象観測に貢献できるよう、海外展開を進めます。

(当社営業担当:グローバル戦略グループ 金子 直紀)

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により革新的な商品・サービスを創造し
安全・安心な社会の発展に貢献していきます。